国語科学習指導案

指導者　広島市立○○中学校
教　諭　○○　○○

１　日時・場所　平成２０年１０月○日

２　学年・学級　第１学年○組

３　単元　　４　古典との出会い　　蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から―

４　単元について

＜生徒観＞

本学級の生徒は，学習活動に積極的に取り組むことができ，全体的に学習意欲は高い。しかし，他者とうまくかかわりながら互いに意見を交流したり，全体の場で自分の意見を発表したりすることを不得意とする生徒がやや多い。これまでに，「野原はうたう」「にじの見える橋」「漢字①」「麦わら帽子」などで，生活班単位で意見を交流する活動を行ってきたが，交流の輪に入らない消極的な生徒も見られる。ペアでの音読活動等は積極的に行うことができるが，全体での発表となると挙手・発表をする生徒が固定している。

古典の学習に関する事前のアンケートでは，竹取物語の文語文を小学生のときに読んだことのある生徒が１０名おり，冒頭部分を暗唱していた生徒もいた。生徒は，本教材で初めて本格的に古典に触れるが，小学校での古典に関する学習経験を「おもしろい」と感じている生徒も多く，古典に対する苦手意識は低いと考えられる。

＜教材観＞

本単元は，『竹取物語』『今に生きる言葉』で構成された中学校で初めての古典単元である。古典の文章に出会い，古典に対する興味や関心をもち，現代とのつながりを考えるとともに，仮名遣いに注意しながら音読し，古典の文章に読み慣れることを主なねらいとしている。

『竹取物語』は，紫式部が『源氏物語』の中で「物語の祖（おや)」と記した，現存する日本最古の物語であり，現代にも読み継がれ，親しまれている作品である。本教材「蓬莱の玉の枝」には，『竹取物語』の中の冒頭の部分と，くらもちの皇子の冒険談，かぐや姫昇天後の部分が原文で，その間に，現代語訳による要約が載せられ，作品の全体像がつかめるように配置されている。文語文は歯切れのよいリズミカルな文体で，音読したり暗唱したりするのに適している。また，文語文と現代語訳が上下に分けた対訳形式で書かれており，文語文と訳文を比べながら読むことができるので，逐語訳することなく古文に親しむことができる。

＜指導観＞

指導に当たっては，難解さを印象付けやすい文法事項や語釈に傾注せず，生徒の興味・関心を生かしながら，まず読み慣れることに重点を置きたい。毎時間，帯時間を設けて音読を行い，個人練習やペア音読，丸読み，対訳読みや一斉読み，暗唱等を行うことで，声を出す機会を多く作って，古典特有の言い回しやリズムに親しませたい。また，毎時間，グループによる話し合い活動を取り入れ，個人の意見を全体に発表する機会を多く作りたい。さらに，自己評価表に気付きなどを記入させ，自己の考えの変化を記録させるようにする。

５　少人数教育のよさを生かした指導の工夫

○　教師による役割の分担

・　Ｔ１は，授業の進行役としての役割を担う。

・　Ｔ２は生徒の学習への構えの状況に絶えず気を配り，Ｔ１の発問や指示が生徒全体に行き渡るような指導・支援を行う役割を担う。

・　個の学習場面に於いては，Ｔ１，Ｔ２で，主に誰を見取って支援・評価を行うか予め決めておき，共に個別指導に当たる。

○　柔軟な学習形態の展開

・ペア・班・一斉など様々なグループで音読や話し合いを行う。

○　教室の有効利用

・　教室の広さを生かし，机の間を広くすることで，机間指導をしやすくする。

○　教材・教具の充実

・　自作プリント，ビデオ教材の活用

・　自己評価表の活用

○　個に応じた支援の充実

・　自己評価表から事前に生徒の学習状況を見取り，計画的な机間指導をすることで，個々の学習内容の理解度を上げていく。

・　机間指導中，その場ですぐに，個々の生徒への賞賛や励ましの言葉をかける。

6　指導計画（全１０時間）

次	時	主な学習活動	主な評価の観点
一	1	VTR を視聴し，「竹取物語」のあらすじをとらえる。自己評価表に感想を記入する。	VTR を視聴し，自己評価表に感想を記入している。
二	2 3	冒頭を繰り返し音読し，古文のリズムに親しむ。 冒頭部分の内容を確認し，竹取の翁とかぐや姫の出会いの様子を知る。	繰り返し音読を行い，自己評価表に竹取の翁とかぐや姫の出会いの様子の感想を記入している。
三	4 5 6	現代文を読み，かぐや姫への求婚の様子を知るとともに，くらもちの皇子の冒険談を文語文で音読し，古文独特のリズムに読み慣れる。 くらもちの皇子の冒険談の文語文と現代語訳を交互に音読し，内容をつかむ。 蓬莱山の冒険談から，くらもちの皇子の人物像に迫る。**（本時）**	ペア読みを積極的に行い，音読カードにサインをもらっている。 グループでの話し合いに参加し，意見を交流している。 くらもちの皇子の人物像について，自分の考えを自己評価表に記入している。
四	7 8 9	くらもちの皇子や他の求婚者の後日談を知る。 かぐや姫が月に帰るまでの場面の現代文を読み，終末の場面の文語文を繰り返し朗読する。 帝の行動や気持ちについて，場面の情景を想像しながら読み取り，現代の自分たちとの共通点や相違点について考える。	現代の自分たちとの共通点や相違点について，自分の考えを具体的に自己評価表に記入している。
五	10	暗唱テスト	「竹取物語」の冒頭をすらすらと暗唱することができる。

7　本時の目標

○　くらもちの皇子の架空の冒険談を読み，くらもちの皇子の人物像について考える。

10　本時の展開

主な学習活動と主要発問（□）	予想される生徒の反応	教師の支援（○）と評価（◎） 少人数教育のよさを生かした指導・支援（◇）	
		Ｔ１	Ｔ２
１　漢字テスト 　次回の範囲の確認 ２　前時の学習内容を想起し，文語文（後半）を音読する。 ３　古語の意味の確認する。 ４　本時の課題を知る。	 ・個人で練習する。 ・歴史的仮名遣いや，前後のつながりに注意しながら文語文を音読する。 ・	○出題 ◇机間指導（教室前）	○授業規律 　・教室環境の整備 ◇机間指導（教室後）
くらもちの皇子は，どんな考えや気持ちで架空の冒険談を物語ったのだろう			
５　P113～P115のくらもちの皇子の冒険談（文語文）を全員で音読する。 ６　くらもちの皇子の架空の冒険談について考える。 □「くらもちの皇子の話は架空の話ですが，どんな風に物語ったと書いてありますか。」 ・「『まことしやか』とはどのような意味ですか。」 ①くらもちの皇子がまことしやかに物語っていることについて考える。 □「『まことしやか』に物語っていると思われる所に線を引き，なぜそう物語ったのかグループで話し合いましょう。」（グループ）	・全員で息を合わせながら音読する。 ・まことしやかに物語ったと書いてある。 ・「まこと」は「本当」という意味だと思う。 ・まず一人一人が一つ見つけて，それをグループで交流する。	◇全員の口元が見える場所に立ち，個々の口の動きを見取る。 ○「本当に行ったとしたら，自分だったらどうするだろうか。」を考えさせ，皇子の話の内容との違いを見つけさせる。 ◇机間指導（教室前） 文語文で読み取ることが不得意な生徒に対して	◇机間指導で，個々の声がしっかり出ているかどうか聞き取る。 ◇机間指導（教室後） 文語文で読み取ることが不得意な生徒に

・班で話し合ったことを発表する。	・「情景をくわしく説明しているところ。詳しく言えばかぐや姫が信じてくれると考えた。」 ・「（蓬莱山に）本当に行ったのなら，知らない場所で初めての場所だから，目的の物をみつけてすぐに帰るはずだけど，本当に行っていないから時間をかけて山を見て回ったようなことが言える。信じてほしいから。」	は，現代語訳を参考にするように助言する。 ◎班での話し合いに参加し，意見を交流している。	対しては，現代語訳を参考にするように助言する。
②　くらもちの皇子の「いとわろかりしかども，のたまひしに違はましかば」について考える。 「なぜ「のたまひしに違はましかば」（おっしゃったものと違っていてはいけないだろうと思い）と言ったのだろう。」（個人）	自分の考えをノートに書く。 ・「かぐや姫を信じさせるため。」 ・「にせものと疑われたら困るから。」 ・「蓬莱の玉の枝は皇子の持っているものしかないから。」 ・「かぐや姫にどうして他の美しい枝を持って帰らなかったのかと尋ねられたら困るから。」	◇机間指導（教室前） ノートを確認し，生徒の答えを評価する。 ◎くらもちの皇子の人物像や気持ちをノートに記入している。	◇机間指導（教室後） ノートを確認し，生徒の答えを評価する ◎くらもちの皇子の人物像や気持ちをノートに記入している。
③　くらもちの皇子になりきって後半部分の文語文を朗読する。	・どのように読めばいいか考え，工夫して音読する。（もっともらしく，堂々と，必死で，相手の目を見て等）	◇机間指導（教室前） ◎くらもちの皇子になりきって文語文を朗読している。	◇机間指導（教室後）
７　くらもちの皇子と現代の人々の行動を比べる。 「相手を信じさせるために，まことしやかに物語ったことはありませんか。」。 ・自己評価表の記入	・「〇〇がほしいとき，本当は３人のことしか知らないのに,『みんな持ってる』と言ったことがある。」	◎自己の考えを自己評価表に記入している。	